



平成27年9月1日

NBN Niigata Bousai Network

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部会報 第12号
新潟防災ネットワーク

北信越連絡協議会総会報告 事務局長 尾身誠司

平成27年7月4日日本防災士会北信越連絡協議会通常総会に西潟支部長と参加してきました。今年度の開催地は福井市敦賀総合研修センターで行われました。前泊で福井県黒川支部長、本部の松尾副会長、辻子事務局長と懇談することができ、本部、支部、防災士としてのどうあるべきかなど有意義な意見交換ができました。

通常総会は事業報告、決算、予算、事業計画ともに承認されました。次年度の当番県が新潟県に決定しました。皆様のご協力を今のうちからお願いいたします。

午後からの研修会は本部松尾副会長の「日本防災士会の現況と今後の活動について」の講演があり、防災士資格認証者は9万人を超えているが日本防災士会会員は5パーセント程、いかに防災士の活動を実践していくのかはどこも同じであると感じました。

研修会は「原子力防災と放射線」福井大学附属国際原子力工学研究所安田仲宏教授から放射線は放射性物質から発生するもので、管理された中で利用されている。正しい知識を身につけることが必要である。と講演された。しかし原子力災害が発生した時にいかに対応するかは従来から検討されていた。福島第一原発事故以来安全神話は崩れ国民の不安は増大しています。

「行政の原子力防災対策」敦賀市市民生活部危機管理対策小山明課長から敦賀市の避難対策について説明があった。国で示した避難計画にそって作成されているようです。

「施設見学」はセンター内にある研修施設、原子炉建屋で使用するロボットの実演、模擬操作室の見学をすることができました。

新潟県は柏崎・刈羽原発があり他人ごとではありません。防災士として何ができるのか、個人としての心構えは必要であるが、行政主体に避難計画が作成されて運用するなかで大きな課題だと感じています。

北信越連絡協議会 研修会



会員防災士の活動



地域の自主防災組織の整備について

新潟県防災士会佐渡地区 笹木 雅彦

昨年(2019年)の11月8日(土)「佐渡島総合開発センター」において開催されました、日本防災士会佐渡地区主催の防災士研修会に参加させていただきました。当日は、新潟県支部より伊原下越地区副支部長と駒澤さまに講師としてご来島いただき、参加者は佐渡地区において防災士として活動している29名。これから防災士の資格を取得するために受講する2名の合計31名が参加しました。

はじめに、小池前副支部長から挨拶があり、佐渡地区では東日本大震災をきっかけに自主防災組織の整備と活性化に向け自主防災リーダーをその中心と位置づけ防災研修に力を入れており、年に数回佐渡市主催の防災士研修が行われていること、今回の研修会も佐渡市との連携強化と地域防災への積極参加に向けた取り組みであるとの説明がありました。

研修会は第一部・第二部に分かれ、第一部で伊原副支部長から、現在新潟市で行っているHUGの紹介があり、避難所に行く理由とその課題をきちんと把握しておくことの重要性について説明がありました。避難所のレイアウトや組織、運営体制などについてイベントがいくつか用意され、班ごとに意見を出し合う研修が行われました。

第二部では駒澤さまが、防災士と地域の自主防災組織との係わり方についてご自身の体験をもとに説明されました。地域コミュニティ協議会での防災部の立ち上げと避難所運営体制の強化と研修。中学生を対象としたジュニアレスキュー研修の取り組みなどが紹介されました。

私は防災士資格を取得しましたが、具体的な活動までは至っていないのが現状でした。今年は、昨年の研修を受け、地域防災リーダーとして佐渡市防災マップ等を活用し地域防災の計画を立て、地区総会等において被災時の避難所設置に係る物資の備蓄などを提言し整備を始めました。

これからも地域の住民のために、地域の自主防災組織の要として活動してまいります。



研修会(佐渡地区)伊原副支部長 駒澤防災士



まち歩きのポイント説明(新潟地区)

「平成27年度半年間を振り返る」

副支部長（新潟市担当）伊原 敏春

早いもので朝のゴミ出しの時などには秋を感じるようになってしまいました。

最近の活動状況について会員の皆様に報告したいと思います。

6月は、新潟地震ということもあり、新潟市からの依頼により新潟市立有明台小学校で防災学習を担当しました。発災日の16日です。

当日は、学年ごとの体験型訓練が消防団の指導でおこなわれ、併せて周辺住民も避難行動ということで小学校の屋上への避難も実施されるなど地域全体の事業になっていました。

授業の題材は、本部から送付されたDVD「防災クイズ」です。子どもたちに伝えたいことが、本部のDVDの内容と少し違うように感じてパワーポイント（PPT）で作成しました。6年生の1クラスを10班に分けて行いました。津波や地震についての回答は、すごく良く「自身の身を守る」ことについては学校での教育の賜物と感心しました。

6月20日（土）は、総会でも紹介がありました。東京本部の総会に参加し「新潟県支部の活動紹介」ということで、県支部作成のチラシの紹介も含め平成26年度におこなったHUGの研修について報告して来ました。短い時間の中でしたが、防災士は地域に寄り添った活動が大切であることを改めて伝えてきました。

7月には、コミ協さんと亀田郷土地改良区及び大河津資料館を訪ね、水害について学びました。30日には、新潟市の依頼で西区内の公民館で昨年に引き続きHUGの検討会に指導者補助として参加しました。

8月には、東区で避難所運営検討会が開催され今年度のテーマ「避難所運営本部の組織及び各班の役割について」で課題を考えながら避難所ごとの組織を考えるという作業の指導補助をおこないました。

この検討会終了後、直ぐに参加したコミ協さんから今後の研修等について相談があり、今後発展か望めるものと考えています。

同月24日（月）は、朝8時30分スタートで下山小学校の6年生と一緒に「地域防災マップづくり」をおこないました。新潟県に引き続き新潟市も今年度から各学校で防災学習の自校化が進められるとのことでした。

学校からの依頼から実施日まで時間が無い中で当日の進め方、地域コミ協との調整、必要な用具等の貸し出し依頼等の作業を行い、当日を迎えました。

下山小学校は、現在砂丘列の上にあります。新潟地震時は、旧阿賀野川の河川敷に在ったらしく激しい液状化と津波の影響で全く使えなくなったそうです。そうした話を当時から在住の自治会長さん達から子どもたちに話してもらったメニュー等に加え、防災マップづくりも予定通り午前中に終了しました。

また、昨年度には現在地での2代目である新校舎が完成し、災害時のトイレ問題にも対応可能であることが確認できました。後日地域住民の一人として避難所になる施設の見学会（防災訓練）を実施できればと考えています。

その他の活動として、DIGの指導要請があったコミ協さんとの打合せや三条市水防学習館の見学を希望するコミ協さんとの打合せなどをおこなっています。

なお、三条市水防学習館では、施設の見学以外に三条市行政課の防災担当班にお願いし「災害時要援護者の支援制度について」防災講話をお願いすることとしております。

最後になりますが、酷暑の疲れが出る頃になりました。心身にご配慮の上今後も益々のご活躍を祈念しております。



新潟県支部からのお知らせ

§ 事務局通信 §

<活動状況>

- ① 6月6日(土) 新潟県防災士会総会 (出席17名・委任状出席53名)
- ② 6月20日(土) 日本防災士会定期総会 (伊原副支部長 HUG研修紹介)
- ③ 7月4日(土) 北信越連絡協議会総会・研修会 (西潟・尾身)
- ④ 8月30日(日) 北信越連絡協議会防災教育研修会 (尾身副支部長 パネラー)

<今後の予定等>

- ① 9月30日(水) 新潟県支部役員会 支部活動の方針 新潟市
- ② 27年10月18日(日) 十日町市総合防災訓練 (消火・避難所運営訓練)

<災害マップづくり資料>

「防災クイズ」、「災害マップづくり」の資料を、伊原副支部長より用意して頂きました。ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

◎ 会費納入のお願い ◎

日本防災士会新潟県支部は、皆様からの会費により運営されております。平成27年7月末現在において、会費を納めていない方が多くおります。この会報発行の経費もこの会費により賄われております。まだ会費を納付していない皆様におかれましては、速やかな入金をお願いいたします。

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部 会員募集

日本防災士会 新潟県支部では、会員を募集しています。あなたの地域で防災士を取得されている方で、さらなるスキルUPを希望されていたり、新潟県内や全国の様々な情報を欲している方はいませんか？ 現在、県支部会員(4月1日現在)は、下越地区28人 上越地区8人 中越地区31人 佐渡地区41人 合計108人になっています。新潟県自主防災コーディネーター登録者数は4月1日現在151名ということですので

日本防災士会 新潟県支部では、防災活動に関する様々なニーズにお応えできる研修会や情報提供を行っております。入会を希望される方は、下記事務局までご連絡ください。

※NPO 法人日本防災士会・新潟県支部事務局

エヌシーイー株式会社 新潟市中央区網川原1丁目4番11号

電話：025-285-8540 FAX：025-285-3531

ホームページ：<http://www.nceinc.co.jp/>

メールアドレス：bousaisikai-niigata@nceinc.co.jp

編集後記

台風18号影響による大雨で関東や東北で甚大な被害が発生しました。栃木・茨城・宮城県に出された「特別警報」を生かす方法なかったのでしょうか。鬼怒川の氾濫は、平成16年の新潟・福島豪雨の記憶を呼び起こしました。

災害列島、それでも私たちは、生まれ育った大切な郷土を離れることはできません。いずこでも起こりうる災害に対して、「自助・共助」の意識をより強く致しました。(正)